

行動災害予防のための 青い森^{プラス} “+ Safe” 協議会を開催しました

青森労働局では、第三次産業を中心に増加している転倒災害や腰痛などの労働者の作業行動を起因とする労働災害（行動災害）を予防するため、昨年10月に管内のリーディングカンパニー、地方公共団体、関係団体を構成員とする「青い森 “+ Safe” 協議会」を、小売業、介護施設それぞれで設置し、第1回の協議会を開催しましたが、第2回協議会を介護施設は令和5年2月20日に、小売店舗は同月21日にそれぞれ開催しました。

各協議会においては、先に配付のカード（名刺タイプ）とともに、今般作成した試作品のポスター、リーフレット、シールを各構成員が持ち帰り、事業場内に掲示あるいは従業員への配付等を行い、今後の協議会においてその効果の検証や改善策の検討を行うこととなりました。

意見交換では、「従業員への安全啓発活動の取組」に関し、

- ・（節電しながらも）転倒防止のための階段利用時の照明の点灯について、ポスターによる注意喚起を行っていること
- ・ストレッチ、体操を継続していること
- ・ヒヤリハット報告制度の活用を図ること
- ・脚立からの墜落・転落災害防止のため、手すり付き脚立に順次更新していること
- ・店内の床材の検討が必要ではないか
- ・転倒以外でも、急いだために誤った手順による災害が発生しており、安全面をより考慮したオペレーションの検討が必要であること

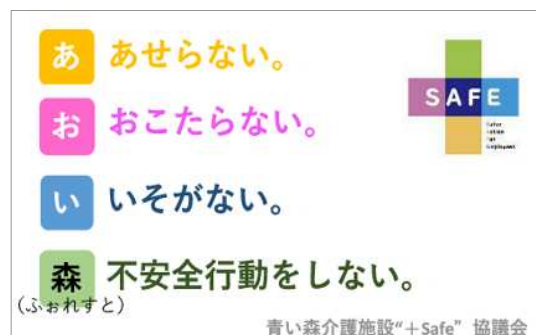
との取組事例や意見があり、また「人材確保に寄与する “+ Safe” 協議会活動のあり方」については、

- ・各種の機会にノーリフトケアの説明、体験を行うようにしており、ノーリフトケアの推進が人材確保につながっていること
- ・就職指導の担当者に、「介護の現場は大変」との認識があること

との事例、意見がありました。

その後、昨年末に募集のあった厚生労働省の「SAFE コンソーシアムアワード」のウェルビーイング（安全衛生）部門、転倒災害防止部門、腰痛予防部門のブロック賞受賞事例から、ノーリフトケアや仕事の満足度調査などの具体的な改善に向けた「仕組み」で安全・安心な介護職場を実現する介護施設、安全パトロールによる職場内の環境整備を行う介護施設、事故を未然に予見

カード（名刺タイプ）



する KYT 活動を行う小売店舗、原料袋の軽量化と腰痛ベルトで腰痛予防と作業の効率化が得られた企業など、取組の参考となるような事例の紹介がありました。(これらの受賞事例は SAFE コンソーシアムポータルサイト「<https://safeconsortium.mhlw.go.jp/award/>」でご覧いただけます)

協議会では引き続き、各構成員の取組等の情報交換、専門家による転倒防止や腰痛予防対策などにかかる講演、構成員相互の現場視察の実施を検討するとともに、協議会で得られた好事例などの情報の水平展開による業界全体の労働災害防止の機運の醸成を図っていくこととしています。



協議会構成員

青い森介護施設 “+ Safe”協議会

社会福祉法人奥入瀬会

医療法人サンメディコ

社会福祉法人スプリング特別養護老人ホーム福寿草

社会福祉法人平元会

社会福祉法人緑風会

青森県健康福祉部高齢福祉保険課

公益社団法人青森県老人福祉協会

青い森小売店舗 “+ Safe”協議会

株式会社サンデー

株式会社マエダ

株式会社ユニバース

青森県商工労働部労政・能力開発課

青森県商工会議所連合会

ポスター

